令和２年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立竹の塚中学校
校　長　　齋藤　由美子

１　学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた、国際社会で信頼の得られる生徒の育成を目指し、次の目標を設定する。
・深く考え進んで実践する
・互いに尊重し平和な社会をつくる
・豊かな心と健康な体をつくる

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・自ら学び、一人一人が目標をもって活動する学校＝「活力」ある学校 ・生徒との信頼関係を指導の基盤とする学校＝「笑顔」あふれる学校 ・保護者や地域から信頼され、愛される学校
○児童・生徒像	・自ら意欲をもって学ぶ生徒 ・自他を尊重し、思いやりのある生徒 ・何事にも進んで活動する生徒
○教師像	・生徒の人格を尊重し、使命感に燃える教師 ・常に向上心をもち、自らを高めようとする教師 ・一人一人の生徒に寄り添い、生徒の学力向上と能力開発に全力をつくす教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】
◎学校について
［よさ］落ち着いた学習環境・生活環境の中で、教育活動・学校運営が行われている。［課題］安定した入学者数の確保を継続する。
◎生徒について
［よさ］素朴で素直な生徒が多い。ボランテイア活動に意欲がある。［課題］基礎学力の定着と学習意欲の持続、家庭学習の習慣を身に付ける。
◎教師について
［よさ］熱心で前向きな教員が多い。一人一人の生徒に粘り強く丁寧な指導を行っている。［課題］若手リーダーの育成と授業改善を組織的に取り組む。
◎保護者・地域について
［よさ］地域は学校教育に対する支援・協力を惜しまない。［課題］保護者の学校支援（PTA 活動、保護者会等の出席者数など）が減少している。
【前年度の成果と課題】
●基礎学力の定着
　基礎学力が未定着の生徒に対する放課後補充教室・朝学習・3 教科の学習コンテストの取組み・家庭学習の取組み等、個に応じた事後の取組みを丁寧に行ってきた。区学力調査の通過率が 53.6％であり目標値の 52%以上は達成できたものの、正答率は 53.4％であり目標値 55％以上は達成することができなかった。継続して定着度に応じた取り組みを強化する。また、各取り組みの精度を上げることが課題である。
●小中連携
　足立スタンダードの徹底や教科で目指す目標などを計画的に協議させ、年度末に発表させる体制は今後も継続していく。また、学力向上策を重点とし

た諸事業を積極的に行う。それぞれがもつ専門的な力や知恵を出し合い、その成果や課題を地域と共有し、地域から信頼される学校として発展させる。
●心の教育の充実
　学校行事等に全生徒が係として関わり、全員参加の形態を取り入れて、感動体験を味あわせた。学校の一員・地域の一員としての自覚や責任の育成に向けて今後も推進を行う。「学校から発信するまちづくり」をキーワードにオリジナルキャラクター「竹坊」を活用促進した。また、生徒会の主体的な活動を中心に「いじめゼロ宣言」・生徒会によるいじめアンケートの実施など、いじめ撲滅に向けた取組みを行った。いじめに対する意識が教員・生徒ともに高く、今後も学校・家庭・地域における日常的な生徒とのかかわりを大切に、生徒の実態に応じた細やかな指導を継続して行っていく。

4　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　H:平成　R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン＝「基礎学力の定着」	○	○	○	○	○
2	小学校との連携＝「9 年間を見据えた教育活動の接続」	○	○	○	○	○
3	心の教育の充実	○	○	○	○	○

5　令和２年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン＝「基礎学力の定着」			
A　今年度の成果目標	達成基準 （目標正答率・通過率）	実施結果 （正答率・通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
基礎学力の定着と向上を図る	年度末到達度確認テスト:正答率 62% （令和 3 年度区調査:通過率 60%以上）			

B　目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続	①放課後 補充教室	・全学年 ・国語 ・数学 ・英語 ・授業理解度：下位及び中位生徒	＜放課後＞ 月～金まで 25 分間 15:35～16:00	＜放課後補充教室＞ 【目的】 ・学力下位生徒の基礎学力の定着 ・学力中位生徒の補習 【内容】 ・個々のつまずきに合わせ個別の指導 【指導体制】 ・全教員：下位中位生徒 ・学習ボランティア 【使用教材】 ・プリント教材他	・定期考査 ・区学力調査 活用：7 月 ・到達度確認テスト:3 月 ↓ ・課題分析 （振り返り） 確認テスト	到達度確認テストで C・D の学力層を各教科 10%減少させる			
2 継続	②朝学習 ③学習コンテスト	・全学年 ・国語 ・数学 ・英語	＜国･数･英＞ 隔週ごと実施 8:30～8：35 ※国：朝読書の取組みあり ＜国･数･英＞ １教科：50 分	【目的】 ・基礎学力の定着 【内容】 ・国：90 点以上合格 ・数・英：80 点以上合格 【指導体制】 ・問題作成は教科担任 ・学年ごと 【使用教材】 ・プリント教材他	・各小テスト ↓ ・各回コンテスト	合格率 80% 以上			
3 継続	④家庭学習の定着強化月間	・全学年 ・全教科	＜年 4 回＞ 7 月・9 月 11 月・2 月	【目的】 ・基礎学力の定着 【内容】 ・「家庭学習強化月間」 ・各教科→1 ページ学習 【指導体制】 ・全教員 【使用教材】 ・各教科の教材他	・家庭学習の提出状況	提出 100% 達成率 60%以上			

4 継続	「検証と対策」 ⑤授業力向上と授業改善	・全学年 ・全員	＜毎日＞	【目的】 ・教員の授業力向上 ・「分かった」「できた」が実感できる授業 【内容】 ・生徒授業評価 ・管理職の授業観察による指導・助言	・定期考査 ・区学力調査 ・小テスト ・生徒の授業評価	・生徒の授業評価 a「わかりやすい」b「理解できる」80%以上			

重点的な取組事項－２	小学校との連携＝「9年間を見据えた教育活動の接続」			
Ａ　今年度の成果目標	**達成基準**	**実施結果**	**コメント・課題**	**達成度**
・小学校との連携を通して、学習面や生活面で成果が実感できる	・小中合同研修会　年7回実施 （国語合同研修会　年4回実施）			

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中合同研修会の充実	・年7回の合同研修会 重点教科　国語科 ↓ （合同研修会　4回）	・連携推進委員（校長・副校長・教務主幹・研究主任他1名）が連携を推進 ・基礎学力定着と授業力向上研修の実施			
近隣小学校や保護者・地域への広報活動の充実	・小学生向けの学校だより発行：年4回 ・地域・保護者の肯定的評価：80%	・生徒会による学校紹介ビデオ制作他 ・近隣小学生向け学校だより（7月・10月・12月・2月） ・ホームページの更新を月4回以上行い、学校の様子を発信			

重点的な取組事項－３	心の教育の充実			
Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・自尊感情を育成し、成就感・達成感を高める。 ・人権を尊重する意識の向上	・意識調査「先生や友人から認められている」「人に思いやりの気持ちをもって接している」肯定的回答 80%以上			

Ｂ 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
ボランティア活動の推進	・一人１ボランティア参加 ・生徒、保護者、地域の肯定的評価 80%	・保護者や地域と連携し、活動場所を確保する。 ・生徒会活動の一環としての取り組みとして計画的・組織的に行う。			
人権にかかわる指導・対応、いじめ防止の指導の充実	・教員及び生徒の人権に関する肯定的な評価が 80%以上	・生徒会が主体となるいじめ未然防止の取組み（アンケート２回など）を実施 ・道徳科ローテーション授業を実施 ・人権やいじめに関する校内研修を２回実施			
特別活動（生徒会）の充実	・各学級一人一役の係として関与。生徒の肯定的な回答 80%以上	・各学級で一人一役の係をもち、係活動を通して達成感や充実感をもたせる。 ・委員会活動の事後アンケート等を教員・生徒が行い、実態の情報共有を図る。			

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性
（２）保護者や地域へのメッセージ
（３）その他（学校教育活動全般について）